

新年を喜び祝う

「只見町新年交歓会」開催



▲藤沼氏は森林の分校ふさわで行っている「湿地再生プロジェクト」や地域おこし協力隊の活用について講演しました

「只見町新年交歓会」が1月6日に季の郷湯ら里で開かれました。渡部町長、佐藤町議会議長の年頭のあいさつに続き、来賓の皆様からの祝辞が述べられ、その後、森林の里応援団代表の藤沼航平氏による「関係人口づくり」大学生団体との関わり」のテーマで特別講演が行われました。

講演後は、只見松楓会による祝辞披露されるなどし、参加者は新年を祝いました。

企業版ふるさと納税

東武トップツアーズより寄附



▲佐々木東北統括部課長(中央右)に渡部町長が感謝状を手渡しました

東武トップツアーズ株式会社(本社・東京都)より只見町に100万円の寄附をいただきました。

感謝状贈呈式は1月15日に役場町下庁舎で行われました。佐々木東北統括部課長は「地域の皆様と歩くことを大切にしている。企業も一緒に課題解決を考えていく。寄附だけでなく情報提供など協力していきたい」とあいさつしました。また、渡部町長は「思いのこもった寄附、地域への課題について一緒に考えていただけるということに感謝したい」お礼の言葉を返しました。

地域活性化の専門家が就任

利重氏に「只見町政策推進アドバイザー」を委嘱



▲委嘱状を受け取る利重氏(右)

町は、株式会社企業版ふるさと納税マッチングサポートコンサルタントの利重和彦氏を「只見町政策推進アドバイザー」に委嘱しました。

利重氏は総務省の地域力創造アドバイザーを務めるなど、地域活性化に関する専門的な知識を有しており、また第4期只見町ふるさと大使としても活躍されました。

委嘱状交付式で、利重氏は「大好きな只見町のために、関係人口の創出と地域経済の活性化に協力したい」と意気込みを話しました。

只見町の農業を守る

町農業委員会から意見書の提出



▲意見書を提出した飯塚会長(左)

只見町農業委員会は、農業委員会等に関する法律第38条に基づき、1月15日に農業施策に関する意見書を町へ提出しました。

「担い手への農地利用の集積・集約に係る機械購入支援の継続と拡充」や「集落総ぐるみの担い手支援」、「新規就農者支援体制の拡充と人材の確保」など8項目が記載された意見書は、飯塚会長から渡部町長に手渡されました。

飯塚会長は、「意見書の内容を施策立案や予算編成に反映いただき、安心して農業ができるようお願いしたい」と話しました。



▲協定書を交わした平山那須町長(中央左)と渡部只見町長(中央右)、那須町と只見町を繋いだ片桐氏(中央)

栃木県那須町と 災害時の応援協定締結

只見町は、栃木県那須町と「災害時における相互応援に関する協定」を締結しました。締結式は1月20日に那須町役場で行われ、平山幸宏那須町長と渡部只見町長が協定書を交わしました。

協定書では、災害時の食料や飲料水確保、救援活動に必要な車両の提供及び職員の派遣、被災者の一時受け入れなどについて定め、今後の両町の防災体制の強化を図ります。

協定式には、那須町と只見町が交流を進めるきっかけづくりをされた只見町出身で那須町の「お菓子の城那須ハートランド」創業者の片桐俊輔さんも出席し、協定が結ばれる瞬間に立ち合いました。

協定にあたり、平山那須町長は「両町の美しい自然を将来にわたり守っていくには近年緊迫する災害に迅速に対応する必要がある」と話し、渡部只見町長は「万が一の時には、何でもできることはさせていただきたい」と話しました。また、各出席者からは、「防災面以外の多くの分

野でも交流を深めたい」との意見が交わされました。

締結式終了後、只見町の魅力を那須町に紹介するなどし、両町の縁を繋いだ片桐氏に、町から感謝状の贈呈を行いました。

片桐氏は「万が一の際は、お菓子の城や温泉施設・源泉那須山といった施設を、只見町のために避難場所等として提供したい」と只見町への思いを話しました。



▲片桐氏は「那須町と只見町の交流がさらに深まることを願う」とも話しました。